第 17 回日本在宅医学会大会　シンポジスト　抄録集・ホームページ掲載用原稿

シンポジウムテーマ	公募演題「実践的在宅医療～若き Dr の取り組み～」					
開催日	2015 年 4 月 25 日(土)	時間	15:20-16:50	収容人数	150 名	
講師情報	ふりがな	姓	あべ	名	ともすけ	
	ご芳名		阿部		智介	
	ご所属	医療法人慈孝会　七山診療所				
	部署			役職		

演題名(80 字以内)

中山間地域における高齢者の自立及び尊厳を維持し
最期まで在宅で過ごすための道筋を考える

ご略歴(300 字以内)

平成 18 年東京医科大学医学部医学科卒業。平成 18 年 4 月から社会福祉法人恩賜財団済生会済生会八幡総合病院で初期研修を行い平成 20 年 3 月に修了。平成 20 年 4 月から佐賀大学医学部附属病院総合診療部入局。平成 22 年 3 月に同医局退局し平成 22 年 4 月より阿部医院勤務。先代院長死去につき平成 24 年 9 月より同院院長就任。平成 26 年 1 月より医療法人慈孝会七山診療所へ変更し現在に至る。

講演概要(1000 字以内)

目的

中山間地域の旧七山村では、無医村だった当地区に父が赴任した昭和 55 年は人口約 3500 人だったが、過疎化が進み現在は約 2300 人へと減少した。交通機関も不十分で中心部から離れている集落では通院困難者が増え、そのような集落では独居世帯が多く経済的にも年金のみで十分ではない。訪問診療により自宅で診ることは最終的な手段であり、日常生活が問題なくできる方に通院困難を理由に在宅医療へ移行することは経済的な面で生活を圧迫する。自宅で自立した生活を送ることができる環境をつくることが在宅医療に繋がる道筋と考える。

方法

中心部から遠い池原地区には離れた 3 つの集落がある。元々、父が七山診療所とは別に池原診療所を開設して週 1 回の診療を行っていたが、高齢化により診療所がある集落以外の患者が通院困難な状況になった。通院を要する患者は集落毎に 7 名程で農作業や家事を行うレベルである。訪問診療での対応は経済的負担があり、徒歩等で行くことが可能な各集落の集会所で診療を行う巡回診療により通常の外来と同じ負担で診療できるようにした。疾病等によって集会所へ行くことが困難になれば、訪問診療に切り替えるという流れにすることで住み慣れた自宅で最大限過ごすことができる。

結果

訪問診療の場合は月 6,660 円かかるが、巡回診療は月 2～3 回の診療で月 800 円程度なので生活への負担を増やすことなく自宅での自立した生活が継続できている。また、巡回診療を集会所で行うことにより、普段あまり接点のない高齢者が一堂に集まりコミュニティーとしての情報交換、安否確認、憩いの場となり生活において重要な時間となった。

考察

地域において住み慣れた環境で生きるということは、第一に可能な限りその人の自立を守ることにある。最期の場所が何処かというのは患者や家族の想いを中心に、その時の状況で柔軟に判断しなければならない。私がいる中山間地域では、自宅で最期を迎えることを考えると十分な資源が無く、現状として独居の場合は最終的な局面で介護面のサポートが難しい。しかし、そのような方であっても安心して生活を送る環境にいることが在宅医療への道であり、それが可能な限り自宅で生活していくことへの精神面での支えとなり、その経過の中で可能な選択肢を見つけていくことができる。外来通院から巡回診療、そして訪問診療という流れで環境をつくることが、生きかたを逝きかたに繋げていくきっかけになると考える。